



教育支援センター 「ゆっくるも」の開設に向けて

市では、学校に行くことができない、家庭に閉じこもりがちな子どもに対して、社会的な自立や学校生活への復帰を支援するため、教育支援センター「ゆっくるも」を開設します。

問 市・教育政策課 TEL 42-3006

不登校の定義とは

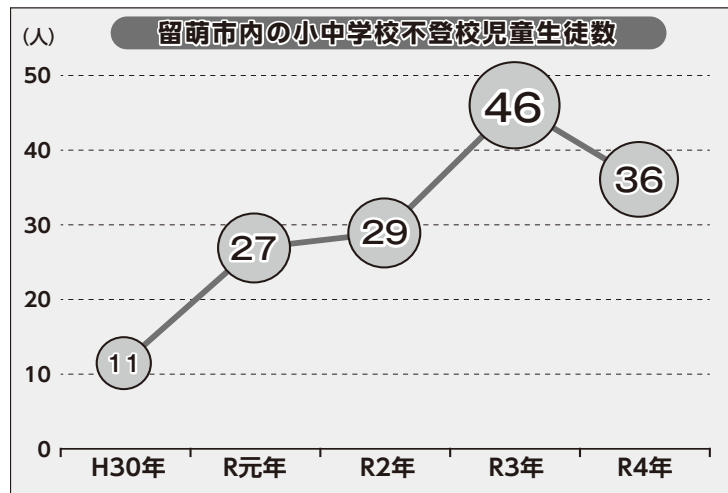
文部科学省は、不登校を「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくてもできない状況にあるため、年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由によるものを除いた者」と定義しています。

不登校の現状と理由

留萌市における不登校の子どもたちは、小中学校合わせて、令和3年度は46名、令和4年度は36名と、年度によってばらつきはありますが、増加傾向にあります。

不登校の子どもたちや保護者へのアンケートでは、「最初に学校に行きづらいつと感じたきっかけ」について、「先生のこと」「身体の不調」「生活リズムの乱れ」「友達のこと」があげられています。

また、ここ数年はコロナ禍による生活環境の変化により、生活リズムが乱れやすい状況であったこと、学校生活において様々な制限の中で交友関係が築けていないなど、登校する意欲が湧きにくい状況にあったと考えられます。



これまでの取り組み

各学校においては、不登校が生じないような学校づくりに努めるとともに、出欠の状況や学校・家庭での様子から不登校の予兆に気づき、早期発見、早期対応を図るよう努めています。

また、不登校またはその傾向の子どもたちへの支援として、家庭訪問や電話などによる家庭との連絡確認のほか、放課後登校や別室登校による学習支援などに努めるとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの関係機関と連携協力の取り組みを学校全体で共通理解を図り、組織的な対応にあたっています。

こうした取り組みの中、現在、留萌市では教育支援センターが設置されておらず、不登校の子どもたちへの支援に関する中心的な機関として、教育支援センターの設置が喫緊の課題でした。

教育支援センターとは？

- 心理的・情緒的な理由により、小中学校に長期間行けない、またはその傾向にある子どもたちのために教育機会を確保し、社会的自立や学校への登校などに繋ぐことを目的とした施設です。
- 教育支援センターは、学校に行けない子どもたちにとって、家庭でもない学校でもない「第3の場所」となることができます。



教育支援センター「ゆっくるも」の支援

教育支援センター「ゆっくるも」を拠点として、関係機関との連携を強化し、子どもたちが自らの進路を主体的に捉え、学校生活への復帰や社会的な自立を目指せるよう、子どもたちに寄り添った支援を行います。

● 生活指導 ●

学校や家庭と連携しながら、基本的な生活習慣の定着や改善を図ります。
(本人の生活習慣に合わせ通級時間を調整)

● 適応指導 ●

体験活動や交流活動などを通じて、コミュニケーション力や社会性を育みます。
(軽運動、交流活動、物づくり活動など)

● 教育相談 ●

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、悩みの解決や心の安定を図る相談やカウンセリングを実施します。
(児童生徒・保護者・教職員が対象)

● 学習指導 ●

一人一人の学力や適性に応じた学習指導について、指導員がサポートしながら取り組みます。
(原則、個別対応)

教育支援センター「ゆっくるも」指導員の紹介

安田 善見 指導員(元 学校長)



学校に行きづらさを感じている子どもたちが安心して過ごしたり、学習したりしながら、次のステージに進出できるようサポートしていきます。

吉田 千春 指導員(元 教職員)



心の声、体の声を受け止め、気持ちに寄り添ったサポートをさせていただきます。「頑張る」ではなく「大丈夫」の一步を一緒に積み重ねていきましょう。

ひとりで悩まず、電話してみませんか？

TEL：090-9005-5338 (「ゆっくるも」専用携帯電話)

場所：留萌市中央公民館 2F 時間：9時～15時 (土日祝日除く)